

2012(平成24)年度入学試験問題(前期日程)

## 小論文

教育学部学校教育教員養成課程小・中学校教科教育コース

社会科教育専修

### 注意事項

1. 受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
2. 解答は、必ず解答用紙に記入すること。
3. 解答用紙のほかに、下書き用紙を配付するので、取り違えないよう注意すること。
4. 解答時間は、150分である。
5. 横書き、鉛筆(シャープペンシルを含む)書きにすること。

## 【問題】

資料1・2は、『性の授業 死の授業』（教育史料出版会 1996年、48～56ページ、161～164ページ）の一部である。資料1は金沢市立富樫小学校教諭であった金森俊朗の執筆部分で、小学校3年生の実践記録とその実践の意図を語ったものである。資料2は、金沢大学の村井淳志の執筆部分で、金森実践の理論的意味を示したものである。

以上二つの資料を読んで、以下の各問に答えなさい。

問1、金森俊朗は、参観日の授業のテーマをなぜ「性、愛、生きる」としたのかを、資料1に基づいて説明しなさい。（400字程度）

問2、金森俊朗の性教育に精子と卵子の話が直接出てこない理由を村井淳志はどのように説明しているのか、資料2に基づいて述べなさい。（400字程度）

問3、村井淳志は「具体的だが普遍性に乏しいという生活者の関心に特有の矛盾を実践的に突破するのが、金森のいう『ほんものに触れる』という方策」であるという。村井淳志は資料2で、何を普遍的だと言っているか、具体的に説明しなさい。

また、資料1で示されている「超音波の写真」は、村井淳志の言う「ほんもの」に当たるのか否かを判断し、あなたがそのように判断した理由を記しなさい。（800字程度）

非公開

非公開

非公開

非公開

非公開

非公開

2012(平成24)年度入学試験問題(前期日程)

## 小論文

教育学部学校教育教員養成課程小・中学校教科教育コース

社会科教育専修

### 出題の意図

この小論文の出題の意図は、大学において、社会科授業を作る際に不可欠な資質について評価する。問1においては、授業者の意図を実践記録から読み取る能力をみる。問2においては、研究者の論理を説明する能力を問う。問3においては、研究者の知見を実証的に吟味する能力を問う。